

# グローバル・スタートアップ・キャンパスのイメージ (これまでの議論のまとめ)

# グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の背景・目的

## 【GSC構想のビジョン】

- 大学のディープテックを核としたイノベーション・エコシステムの形成を通じ、未来を拓く新しい力をつくること
  - ✓ 研究者が研究に専念しながら、スタートアップ創設・育成し、グローバルにビジネス展開可能な支援機能を有する拠点形成（成功事例の創出）
  - ✓ その実現のために必要な人材育成（若手研究者、起業家、BD・IP人材、ディープテック分野の投資家）
  - ✓ 全国の各都市へのエコシステムのキャパシティ強化・モデル普及

## 【背景（日米比較）】

### 米国大学のエコシステム

トップ研究者（PI）が研究に専念しながら、スタートアップを通じた事業化促進が可能な環境

- 知財、ビジネス支援の専門スタッフが研究者の事業化を支援（VC等もプログラム提供）
- 大学及びその周辺機関にて、ポスドク等が起業家（CEO）となる/リアル起業家（外部CEO）と協業のための機会を提供
  - ※ George Churchラボでは、34社中21社でラボ卒業生がCEOを務めている。
  - ※ MIT等の米国大学では、様々な関連プログラムを提供している。

### 日本大学のエコシステム

研究者がスタートアップを創設する場合には、研究時間を犠牲にしている状況

- 大学等のPIが研究成果を基にしてスタートアップを立ち上げる際、経営者を探すのが困難であり、自ら経営に関与せざるを得ない状況。ポスドク等がスタートアップのCEOとなることは稀。
  - ※ 教員業績評価を論文数ベースからインパクトベースに変える取り組みを同時に推進する必要がある。
  - ※ 大学PIと同PIが関与するスタートアップとの利益相反のルール未整備との指摘あり。
- 大学等のPIは知財のライセンス先の探索や、スタートアップ立ち上げの方策を自ら開拓しなければならない場合が多数。

# グローバル・スタートアップキャンパスの運営イメージ

## ①ディープテック分野の研究（海外トップ研究者の誘致／若手研究者の育成）

- ・ 海外トップ大学並みの研究環境の整備（若手が独立PIとして活躍できる研究費、ラボ立ち上げ資金、優秀な若手を惹きつける給与、コフアシリティ等）
- ・ クロスアポイントメントを活用し、既存の大学等との人的交流を加速
- ・ 既存大学では実施が十分でないディープテック分野の研究実施（ソーシャル・インパ 外を重視しつつ事業化に繋がる研究、経済安全保障にも資する研究等）
- ・ 優秀なポスドク等をトップサイエンティストを目指して育成（海外PIへのフェローシップを含む）

## ②スタートアップ創出支援（トランスレーション支援）

- ・ ポスドク等が起業家（CEO）となるリアル起業家（外部CEO）と協業のための海外で確立されたプログラム提供（チームビルディング、マーケティング、ファイナンス、特許申請、VCとのコミュニケーション、卒業生等とのネットワーキング）
- ・ ポスドク等への資金支援（gap fund）、コンペの実施
- ・ ビジネス化支援、知財支援（いずれも専門性を有する専門スタッフの設置）及びその人材育成（フェローシップ等）

## ③スタートアップ育成支援（海外VCとのネットワーキング）

- ・ ディープテック分野の専門性を有するVCやアクセラレータによるプログラム提供及び同分野での国内投資家の育成（フェローシップ等）
- ・ スタートアップの研究スペースの確保・提供
- ・ 国内外のエコシステム関係者とのネットワーキング、コミュニティ形成